

【3】AP水についての試験評価

1) 各種菌に対する除菌効果 (その1)

試験方法)

各細菌を培養した菌液0.1mlに対して、AP水を10ml添加し所定の放置時間毎に採取し菌数を評価した。

結果)

細菌	初発菌数 (個/ml)	放置後の菌数 (個/ml)			
		0.5分後	1分後	5分後	10分後
大腸菌	4.2×10^5	<10	<10	<10	<10
黄色ブドウ状球菌	2.8×10^5	<10	<10	<10	<10
緑膿菌	1.7×10^5	<10	<10	<10	<10
枯草菌 (芽胞)	2.5×10^5	2.5×10^5	2.2×10^5	1.2×10^4	<10
O-157	2.3×10^5	<10	<10	<10	<10
サルモネラ菌	3.9×10^5	<10	<10	<10	<10
MRSA	2.4×10^5	<10	<10	<10	<10

(註)分析は日本食品分析センター (メーカー調べ)

除菌剤に対する耐性の強い芽胞の枯草菌についても、10分間の接触時間で除菌が可能となります。

2) 各種菌に対する除菌効果 (その2)

試験方法)

試料: AP水 (有効塩素濃度 30ppm)

次亜塩素酸ナトリウム (有効塩素濃度 100ppm)

菌種: 枯草菌 (芽胞)

黒こうじカビ

測定: 試料に各種菌を接種し20°Cで所定時間保存し菌数を評価

結果)

① 枯草菌(芽胞)に対する効果

	開始時 (個/ml)	放置後の菌数 (個/ml)		
		5分後	10分後	30分後
AP水	2×10^5	1.4×10^3	<10	<10
次亜塩素酸ナトリウム	2×10^5	1.7×10^5	2×10^5	1.8×10^5

② 黒こうじカビに対する効果

	開始時 (個/ml)	放置後の菌数 (個/ml)			
		0.5分後	1分後	3分後	5分後
AP水	1.7×10^5	2.5×10^4	2.8×10^2	20	<10
次亜塩素酸ナトリウム	1.7×10^5	2.1×10^5	3.5×10^5	2.3×10^4	2.6×10^3

(註)分析は日本食品分析センター (メーカー調べ)

枯草菌の芽胞やカビは除菌剤の耐性が強い菌ですが、AP水はいずれの菌に対しても次亜塩素酸ナトリウム100ppmより強い効果を示しました。